

2023 年度

東京交通短期大学
自己点検・評価報告書

2024 年 5 月

【目次】

はじめに

1. 入学志願者獲得のための取り組み……………	4
2. 教育の質を高めるための取り組み……………	5
3. キャリア支援教育の進展……………	6
4. 施設・設備の改善と防災への取り組み……………	7
5. 研究機関としての取り組み……………	8
6. 継続的なFD・SD活動と「建学の精神」等の理解……………	9

おわりに

自己点検・評価報告書

この自己点検・評価報告書は、2023年度の東京交通短期大学の自己点検・評価活動の結果を記したものである。

2024年 5月 31日

理事長・学長 中野 潤

ALO 高橋 真悟

はじめに

豊昭学園東京交通短期大学（以下、本学）は、2023 年度に一般財団法人大学・短期大学基準協会による第 3 評価期間の認証評価を受け、2024 年 3 月 8 日付で「適格」の認定を受けた。

2017 年度以降、第 2 評価期間の認証評価で指摘された課題を重要課題として、各種委員会での施策の検討・実施及び今後の課題の洗い出しを行ってきた。本報告書は、このような背景のもと、2023 年度に実施した自己点検・評価活動についてまとめたものである。

<参 考>

2016 年度認証評価における指摘事項

・向上・充実のための課題

基準Ⅱ 教育課程と学生支援

[テーマ A 教育課程]

シラバスにおいて、講義形式の科目の 15 週目に試験のみを実施計画している科目が複数見られるため改善されたい。

・早急に改善を要すると判断される事項

基準Ⅲ 教育資源と財的資源

[テーマ D 財的資源]

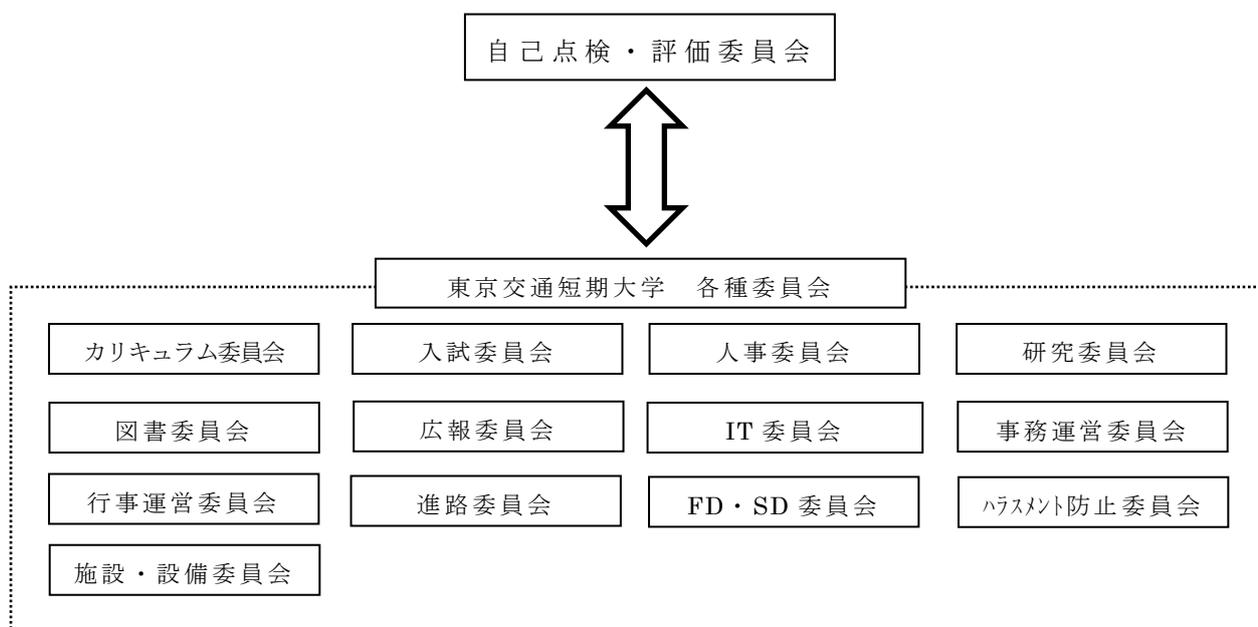
評価の過程で、第 2 評価期間の認証評価時に指摘を受けた教育研究経費比率が依然として低いという状態が認められた。

当該問題については、機関別評価結果の判定までに改善するとの報告を受けた。今後は、継続的な教育の質保証を図るとともに、その向上・充実に向けた取り組みにより一層努められたい。

自己点検・評価の組織と活動

本学では、自己点検・評価委員会を中心とし、各種委員会との連携によって、自己点検・評価活動を実施している。

<自己点検・評価活動の組織図>



1. 入学志願者獲得のための取り組み

2023年度入学者は91名と定員80名を11名上回ったが、2024年度入学者は61名と定員を19名下回る結果（定員の76%）となった。長期的な少子化の影響があるのに加えて、入試データから以下の4点を指摘することができる。

1.1 志願者減少の要因

例年、志願者の多い9月の総合型選抜1期の志願者が少なかった。総合型選抜は本学を第1志望にしている人のための入学者選抜なので、ここが減少するということは、進路決定期に本学を第1志望にした数が減った可能性がある。

次に、10月の総合型選抜2期も志願者が少なかった。この期の総合型選抜は、高校生で就職試験がうまくいかなかった人向けでもある。この期の受験者数が減ったということは、鉄道会社の人手不足を受けて、高校での採用者が増えたのが原因と考えられる。

一方、11月の推薦型選抜の数はあまり変わらなかった。これは指定校の動向にそれほど変化がなかったことが反映された可能性が高い。

そして、12～3月の総合型および一般選抜の志願者も少なかった。この期は例年、四年制大学を受験してうまくいかなかった人が一定数受験していた。それが減少したということは、四年制大学に入学しやすい傾向が反映された可能性が高いと考えている。

<今後の課題>

以上はすぐに入手できる情報や過去の傾向から判断したものだが、今後は来年度以降設置されるIR室を中心として、より多くのデータをもとに、志願者の動向を把握する必要がある。

1.2 志願者獲得への対策

「鉄道会社の採用増」は続く可能性が高く、「四大に合格しやすい」状況も変わらないといえる。したがって、就職実績（内定者の約8割が鉄道会社に就職）を武器に、「進路決定期に第1志望」にしてもらえるようにすること、および進路決定期以外にも鉄道現業職を目指す高校生の受け皿になるよう、これまで実施していない学生募集の具体策を実施していく必要がある。具体的には以下の対策である。

第1は、併設校からの受け入れ強化で、2024年度の春の保護者会と併設2高校の進学相談会への参加を実現する。第2は、年度末入試の実施で、従来実施を見送ってきた3月末の実施を実現し、年度末に進路未決定者の受け皿となることを

目指す。第 3 に、潜在的な受験生がいる地方の高校訪問を検討すると同時に、遠方の高校生向けのオンライン入試を継続する。第 4 に、全国的な知名度の向上を目指し、テレビ局の取材を引き受ける（2024 年 5 月に放送）。第 5 に、専門学校との差別化、とくに四年制大学への編入学、経済的な学納金、幅広い交通業界への就職、学位等をアピールする。第 6 に、優良指定校への継続した高校訪問を行う。

<今後の課題>

併設高校（昭和鉄道高校）への志願者は減っていないため、鉄道業界を志す学生が減っているとはいえない。したがって、全国の鉄道現業職を目指す高校生へ本学の存在と特徴を知ってもらうことが鍵となる。

2. 教育の質を高めるための取り組み

本学では、これまでも授業評価アンケートの実施によって教育の質を高める努力をしてきたが、2024 年度に認証評価の訪問調査を受けるにあたり、以下の制度の導入や施策を実施した。

2.1 教育の質確保へ向けた新制度の導入

認証評価を受けるにあたって必要な以下の 3 つの制度を導入した。第 1 は CAP 制度の導入で、半期に履修できる単位数の上限を、必修科目を除いた 30 単位にする。第 2 は、GPA 制度の導入で、成績評価の点数化（0～4.0）により、成績優秀者や成績不振者の判定および編入学に利用することを可能にする。そして第 3 は、ルーブリック評価の一部導入である。2023 年度は 1 年次の必修科目である「基礎ゼミ」で先行的に導入し、効果を考察する。

<今後の課題>

CAP 制度の導入によって、学生の受講形態にどのような影響が出るのか、GPA 制度の導入で、これまでの算出方法とどのような違いが出てくるか、そしてルーブリック評価の導入が、教育の質向上にどのように役立つかなどを導入後に考察する必要がある。

2.2 学生の視野を広げて卒業後の選択肢を増やす施策

近年、鉄道業界では保守・メンテナンス部門の人手不足が深刻となっている。

そこで本学ではこれらの部門に人材を輩出できるよう、対策を行っている。2022年度、外部講師によるオムニバス授業である「特別教養講座」において、保線の専門家を2名呼んで講義を行ってもらったところ、どちらも好評で大きな反響があったので、2023年度はこれをベースに以下の施策を実施した。

第1は、「特別教養講座」だけでなく、キャリア系授業に保線・バス・地方鉄道の講師を呼び、保守・メンテナンス系はもちろん、バスや地方への関心も高めってもらうようにした。第2は、「鉄道数学」・「鉄道工学」・「鉄道プログラミング」等の工学系科目に興味を持ってもらうために、2024年度後期に「鉄道安全論」を開講することにした。この講座は、(株)小田急エンジニアリングから講師を派遣してもらうという形で実現した。そして第3は、編入学にも興味をもってもらうため、「編入学対策」の授業を新設した。編入学については、これまで個別対策していたものを講義科目として実施することにした。

<今後の課題>

これらの施策によって、実際に保守・メンテナンス系への就職実績が増加するのかを把握するのはもちろんだが、それ以前に、ガイダンス等によってこれらの科目を受講してもらうようアナウンスする必要がある。

3. キャリア支援教育の進展

本学では一学年80人前後の少人数教育を活かして、キャリア支援室を中心としたキャリア支援教育を行ってきた。これをさらに充実させるべく、以下のような取り組みを行った。

3.1 丁寧な個別就職支援の充実とミスマッチの解消

本学の特徴である丁寧な個別就職支援を充実させ、学生の希望と企業側の労働需要がマッチするような就職指導を行った。具体的には、キャリア支援室による面接練習やエントリーシートの添削が挙げられるが、それとは別に、1年次必修の「基礎ゼミ」、2年次必修の「専門ゼミ」における個別面談が挙げられる。ここでの面談結果を専任教職員全員が共有すること通して、丁寧な就職支援を実現している。その結果、鉄道会社への就職率は78.1%（鉄道会社内定者数／内定者数）を実現した。

<今後の課題>

鉄道会社への就職率は雇用状況にも依存するが、この業界を志望する学生がほ

とんどのため、できる限りこの数字が上がるように就職支援をする必要がある。なお、入学者が少なくなる来年度は 1 ゼミあたりの学生数が減少するので、より丁寧な個別指導が実現可能になる。

3.2 四年制大学への編入学強化

四年制大学への編入学指導は編入学担当の教員とゼミ担当者によって指導を行ってきたが、以下の施策によって編入学への道を充実させた。

第 1 は、1 年次後期に「編入学対策」の授業を開講し、2023 年度は履修者が 3 名となった。第 2 は、既存の指定校との連携を強化した。具体的には、従来から実施している拓殖大学政経学部の他に、新たに流通経済大学および文京学院大学の一部の学部から単位認定表を取得した。これにより、本学での取得単位が編入学後にどのように認定され、読み替えられるかがわかりやすくなり、編入学支援を充実させることになった。

<今後の課題>

編入学を志望する学生は少数で、申告をする時期も遅いケースが多い。そのため、一般受験対策を進めにくく、指定校受験中心の傾向にあったが、「編入学対策」の授業を開始することで、それがどのように変化するかを確認し、今後に活かす必要がある。

4. 施設・設備の改善と防災への取り組み

本学の校舎は 2018 年に竣工し、5 年が経過した。校舎そのものの老朽化はほとんどないが、元々対応が遅れている分野があった。学務システムに関するものはその代表である。2023 年度は、これらに関する取り組みと防災意識の向上に努めた。

4.1 学内 DX への取り組み

成績・履修・就活状況等の共有に関して、学務システム導入に向けた IT 化を押し進めた。具体的には、紙の状態で作成されていた古い成績簿をスキャンして、電子ファイルの状態で作成するようにした。これにより、紙の劣化による読み取り不能をなくすことができた。また、面談情報を Google スプレッドシートで一元的に管理することを徹底し、就職活動情報をゼミ教員や事務職員も共有できるようにしている。

＜今後の課題＞

どのような学務システムを導入するのが本学にとってベストなのかを予算面も含めて具体的に検討する必要がある。

4.2 防災意識の向上

防災計画に基づいた避難訓練と教職員の防災知識向上を図った。従来から実施しているガイダンス時における避難訓練を実施すると同時に、避難はしごの使い方に関する動画を作成した。また、避難訓練実施時には、一部の教職員に配布している無線が正常に使用できるかどうかの確認も行った。

一方、教職員の防災知識を高めるために、専任教職員を対象に、消防署での防災研修に参加した。また、法人内において毎年実施される AED 講習においても、教授会後に参加可能な教職員すべてが参加して講習を受けた。

＜今後の課題＞

ガイダンス時に紹介している動画を充実させ、学生に対して本校舎の防災設備全般（防火扉等）を紹介できるようにする必要がある。

5. 研究機関としての取り組み

本学は教育機関であると同時に研究機関でもある。とくに近年では博士号を取得している教員が増えているので、その研究成果を発信していくことによって短期大学としての存在価値を高めていくことが求められている。今年度は主に以下に示す研究のオープンアクセス化に取り組んだ。

5.1 研究機関としての社会貢献と教員の育成

今年度から機関リポジトリの運用を開始することにした。これによって、東京交通学会（本学研究委員会）が発行する『研究紀要』に掲載される論文のオープンアクセス化が実現した。これは本学教員の研究成果を社会に広める新たなツールを獲得したことになる。

一方、「交通短期大学」として、交通・鉄道系教員の育成も怠ってはならないことである。今年度は現在休講である「交通経済学」・「交通概論 B」の担当者として、新たに非常勤講師を採用した。

＜今後の課題＞

交通・鉄道系の専門知識を教えられる教員は限られている。よって、教員の確

保と同時に定年の延長を検討することも課題である。

6. 継続的な FD・SD 活動と「建学の精神」等の理解

授業評価については昨年度と同様、WEB による授業評価アンケートを実施にした。また、例年実施している FD 研究会・SD 研究会を継続的に開催し、一部の FD 活動については翌年度のカリキュラムを考える際の材料とすることができた。

6.1 FD 活動の実施

昨年度と同様、WEB 授業評価アンケートを実施することにした。その後、例年通り教員からの所見も提出してもらったが、事前に極端に短い文章は控えてほしい旨を伝えると同時、見本を添付するなどした。

例年実施している 1 年生の自由研究論文の発表を全教員で聞く（2023 年 12 月 25 日）、2 年生の専門ゼミ発表会を全教員で聞く（2023 年 12 月 2 日）、これらを新しく竣工したコネクションホール（新 6 号館）で実施した。また、各基礎ゼミ担当者と専門ゼミ担当者から現状報告を聞き、課題や改善策を議論する（2024 年 2 月 26 日）も例年通り行い、次年度のゼミ運営の材料とした。

これらとは別に、東日本旅客鉄道（株）国際事業本部の方を講師として招き、鉄道業界における英語に関する研究会（2024 年 1 月 27 日）を実施し、求められる英語能力などに関する講演をしてもらった。

<今後の課題>

授業評価アンケートを含めて、例年通り実施している FD 活動は、本学の教学に反映されている。継続していく必要があると同時に、今回の英語研修会のように、その時に合った研究会を開催していく必要がある。

6.2 SD 活動の実施

昨年度と同様、FD・SD 委員会とハラスメント防止委員会の合同開催で「ハラスメント勉強会」（2024 年 3 月 2 日）を実施し、とくにアカデミックハラスメントに関する知見を深めた。

また、昨年度と同様、学校法人の相談室（カウ室）の先生（臨床心理士）を呼んで、多様な状況下にある学生への対処方法を学ぶ SD 研究会（2024 年 3 月 9 日）を開催した。「目に見えない困難を抱えた学生への理解と対応」というテーマで講演をしてもらい、その後質疑応答形式で具体的事例における対処法などをレクチャーしてもらった。

この他、筑波大学ヒューマンエンパワーメント推進局が主催で行った「多様な学生支援スキル育成プログラム：基礎コース」受講者のうち、要件を満たした受講者に対して修了証明書が発行された。本学でも複数名の教職員が修了証明書を受け取っているため、正確な人数を把握し、本学 HP の「FD・SD 活動について」のページに掲載することにした。

<今後の課題>

臨床心理士による SD 研究会が有益だったため、継続していく必要がある。また、ここで得た知見をどのように実際の教育活動に反映させていくかを全学的に検討する必要がある。

6.3 「建学の精神」等の理解

本学の「建学の精神」・「教育理念」・「教育目的・目標」および 3 つのポリシー（アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー）は以下のとおりである。

本学では、2015 年度に作成した「東京交通短期大学で学ぶにあたって」のリーフレットを各ゼミ（1 年次基礎ゼミと 2 年次専門ゼミ）の初回授業で全学生に配布・説明し、それぞれのゼミの最終授業時に、情報共有がどの程度達成されているかのテストを 2016 年度から継続して行っている。

2023 年度もこれまで同様、このテストを Google Forms を利用した方法で実施した。テストは各ゼミの最終授業時に抜き打ちで実施し、テスト直後に重要箇所の解説も行った。

<今後の課題>

本学の建学の精神等を理解してもらう貴重な機会なので、継続する必要がある。現在のところ内容の変更は考えていないが、Google Forms の結果次第では、リーフレットの内容を見直す必要がある。

[建学の精神と教育理念等]

●建学の精神

本学は、「質実剛健」（飾りけがなく真面目で、たくましく、しっかりしている）を旨とする建学の精神を継承・発展させて、社会の発展に貢献する有意な人材を育成するためにたゆまぬ努力を果たす。

●教育理念（ミッション）

本学は、建学の精神に則り、交通産業関連分野でリーダーシップを発揮する教養ある専門性を有する人材の育成を目指す。

1. 時代や社会の要請に対応できる人材の育成
2. 交通産業および関連分野で専門家として実践力を持つ人材の育成
3. 誠実な姿勢で、課題を発見し解決できる自己実現力のある人材の育成

●教育目的・目標

本学は、建学の精神および教育理念を具体化するために、次のとおり実現を目指す。

1. 一般教養および専門的知識を統合的に身に付けさせる。
2. 交通産業関連で活躍するための基礎能力（技術・理論）を身に付けさせる。
3. 徹底した少人数教育を通じて、実践力を身に付けさせる。
4. 情報社会に対応するための基本処理能力を強化する。
5. 地域および社会の発展に貢献する倫理観と責任感を涵養する。

[3つのポリシー]

●アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）

- 本学の教育理念に沿って創造的・積極的に勉学を希望する者
- 基礎的学力を有し、向学心を絶えず抱いている者
- 人との協調性を有する者

●カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

- 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける
- 交通産業および関連分野で活躍するための基礎能力（技術・理論）を身につける
- 情報化社会に対応するためのITスキルの基本処理能力を身につける
- 地域および社会の発展に貢献する倫理観と責任感を身につける

●ディプロマ・ポリシー（短期大学士の授与方針）

- 時代や社会の要請に対応できる能力
- 交通産業および関連分野での基礎能力（技術・理論）を有し、関連分野で活躍可能な能力
- 誠実な姿勢で、課題を発見し解決できる能力

おわりに

2024 年度入学者が定員を下回る結果となった一方、就職活動においては内定者の 8 割近くが鉄道企業から内定を獲得することができた。本学は、鉄道を中心とした交通業界に優秀な人材を輩出することが社会的使命である。その使命を果たしつつ、入学者を確保していくことが求められている。

2023 年度は認証評価の訪問調査を受けた年度であった。訪問調査で指摘された内容に対しては、学長、ALO、自己点検・評価委員会を中心として、全教職員で改善に取り組んでいく予定である。